

コブ取り爺

語り手 岡村悦子

とんと昔があったげな。じいさんとばあさんがおったげな。そのじいさん、大きなコブが出ていたそうで、それから山へ木樵りに行って、藪に隠れていたら、天狗さんが三人ほど出て、

天狗 天狗 メッテング
天狗 天狗 メッテング

と踊られるそうで、あまりおもしろいものだから、じいさんも藪の中から出て、

天狗 天狗 メッテング
じいをそえて ヨッテング

言って踊ったら、天狗さんがたいへんに喜んで、「やあ、じい、上手だな」と言い、それから、「こりゃあ、おもしろいコブが出ちようなあ。コブ取ってやらあか」と、ちょっとコブを取ってしまった。

すると、顔が軽くなってしまい、じいさんはとても喜んで帰って来たげな。

隣のじいさんにもコブが出ていたが、先のじいさんの顔を見て、

「あら、おまえ、コブ、どげして」

「山へ木樵りに行っちゃったら、天狗さんが踊っちゃらっしゃて、あんまりおもしろいもんだけん、『天狗、天狗、メッテング、じいをそろえて、ヨッテング』言ったら、天狗さんがおもしろがって、コブ取ってごさっしゃってのう、ほんに軽うなっていていいことよのう」と答えたげな。

それから、隣のじいさんも、それなら自分も行ってみてコブを取ってもらおうかな、と出かけたら、また天狗さんが「天狗、天狗、メッテング」とばかり言って踊っておられたので、じいさんもとび出して、

天狗 天狗 メッテング
じいをそえて ヨッテング

と言いながら踊ったら、

「ああ、じいの踊りが上手だなあ」と言い、

「じい、コブが出ちようなあ、もう一つやらあか」と、前のじいさんのコブを、ちょっとつけてもらったので、そのじいさんは両方へコブが出て、それから泣き泣き帰ったげなど。

昔こっぼし。

原話 島根県仁多郡奥出雲町大呂 安部イトさん（明治27年生）

— 出典・酒井董美『島根ふるさとの民話』（平成5年 ワン・ライン発行）より —